

『国立歴史民俗博物館研究報告』(第171集～第190集)総目次

(正体数字は横組, 斜体数字は縦組のページ数)

第171集 共同研究「高度経済成長と生活変化」 (2011年12月発行)		
共同研究の経過と概要	新谷尚紀	1-6
開発の50年代から成長の60年代へ——高度成長期の経済と社会——	浅井良夫	7-24
出稼農民像の変容——季節労働者失業保険金問題を手がかりに——	加瀬和俊	25-41
都市近郊農山村における高度経済成長期という経験——住民の就業履歴および平仙 レース社内報『むつみ』の分析を通して——	湯澤規子	43-64
赤羽台団地の共用空間と居住者ネットワーク	篠原聡子	65-81
多摩ニュータウンという暮らしの実験	金子 淳	83-106
高度成長期の都市計画とまちづくりの現在——新潟県村上市「町屋の人形さま巡 り」に見る家屋空間の再編成と公共性——	矢野敬一	107-133
高度経済成長期の民放テレビの展開と国民生活の変化	石川 研	135-155
高度経済成長と生活変化——第6展示「現代」のテーマから——	関沢まゆみ	157-180
高度経済成長と山村生活の変化	湯川洋司	181-221
高度経済成長期を契機とした植生景観の変化について	小椋純一	223-261
高度経済成長が川上と川下の住民にもたらした影響——太田川を例として——	千田武志	263-281
高度経済成長と農業の変化——日本民俗学からの一試論——	新谷尚紀	283-337
地域の互助協同と高度経済成長	田中宣一	339-358
ある農村における高度経済成長期の食生活——「ビシャル(捨てる)」ことと向き合った 時代——	古家晴美	359-383
民俗の衰退と表出——地方採石業者の経験した高度経済成長——	松田睦彦	385-405
[研究ノート]		
高度経済成長期農家の家計分析——茨城県県南部3町歩農家村松家の事例——	永江雅和	407-427
高度経済成長期前後における村内集団の変遷——太田川中流域(真宗地域)の 場合——	藤井 昭	429-439
東京湾沿岸部の大規模開発に伴う生活変化——高度経済成長期の浦安を事例に——	加藤秀雄	441-462
[資料紹介]		
美濃部都政と「東京ごみ戦争」	中村政則	463-495
田子倉の生業関係調査資料	関沢まゆみ	497-523
第172集 共同研究「東アジア先史時代の定住化過程の研究」 (2012年3月発行)		
共同研究「東アジア先史時代の定住化過程の研究」(2007～2009年度)の経緯と成果	小林謙一	1-9
第I部 縄文時代草創期における定住化		
旧石器時代の女性像と線刻棒	春成秀爾	13-99
日本列島における土器出現期の較正年代について——IntCal04とIntCal09の違い および「13,000年問題」——	工藤雄一郎	101-116
上黒岩岩陰の石器組成の分析	綿貫俊一	117-135
[資料紹介] 上黒岩遺跡出土石器 2	綿貫俊一	137-153
愛媛県上黒岩遺跡における生活空間について——縄文時代草創期・早期の定住化に 関連して——	矢作健二	155-169
縄文時代草創期の地形環境——武蔵野台地神田川周辺遺跡の立地から——	橋本真紀夫	171-188
[調査研究活動報告] 上黒岩遺跡現状測量調査報告	小林謙一	189-196

[研究ノート] 東海地方における縄文時代草創期から早期の土器の炭素14年代測定	遠部 慎・宮田佳樹・小林謙一	197-207
栃木県出土縄文早期土器の岩石学的手法による胎土分析	河西 学	209-229
第II部 縄文時代中期における定住の実態		
縄文時代中期の集落と廃棄について——南関東の中期前半～後半を中心に——	中山真治	233-253
武蔵野台地東辺における縄文時代中期の集落景観	宇佐美哲也	255-315
縄紋時代竪穴住居跡埋没過程の研究	小林謙一	317-355
阿武隈川上流域における縄文中期から後期への集落変化——福島県三春町柴原		
A 遺跡と越田和遺跡の発掘調査から——	福島雅儀	357-414
[研究ノート] 笹ノ沢(3) 遺跡の集落規模	中村哲也	415-444
[調査研究活動報告] 縄文時代中期集落(東京都内) データベースについて	小林謙一	445-475

第173集 共同研究「マロ塚古墳出土品を中心にした古墳時代中期武器武具の研究」

(2012年3月発行)

第1部 共同研究の目的と経過	杉井 健	3-16
第2部 熊本県マロ塚古墳出土遺物の研究	杉井 健 他	19-236
第3部 大阪府七観古墳1913年出土遺物の研究	上野祥史 他	239-350
第4部 考 察		
第1章 帯金式甲冑の製作技術	古谷 毅	353-379
第2章 熊本地域出土鋳留短甲の検討——編年の位置付けと配布の背景——	西嶋剛広	381-410
第3章 東アジアにおける眉庇付冑の系譜——マロ塚古墳出土眉庇付冑を中心として——	橋本達也	411-434
第4章 小札鋳留衝角付冑の変遷とその意義	鈴木一有	435-456
第5章 線刻鉄鏃の系譜	鈴木一有	457-475
第6章 帯金式甲冑と鏡の副葬	上野祥史	477-498
第7章 菊池川流域の古墳	高木恭二	499-540
第8章 マロ塚古墳出現の背景	杉井 健	541-562
第5部 古墳時代甲冑研究の現状	橋本達也	565-608
第6部 総 括	杉井 健	611-615
英文要旨		617-624
図 版		627-760

第174集 共同研究「兆・応・禁・呪の民俗誌」(2012年3月発行)

共同研究の目的と経過	常光 徹	1-6
火車の誕生	勝田 至	7-30
枕団子と死者の想い	山田慎也	31-42
秘術の公開——江戸時代の手品本に見られるまじないについて——	横山泰子	43-55
夢とまじない	花部英雄	57-67
衣裳を通した災厄防除の思想の比較——奄美のノロ神装束とラオス北部の民族衣裳の意匠を中心に——	川野和昭	69-93
サムハラ信仰についての研究——怪我除けから弾丸除けへの変容——	渡邊一弘	95-118
琉球弧における船と樹霊信仰	松尾恒一	119-132
目のフォークロア——兆・応・禁・呪のひとつの基盤——	小池淳一	133-144
皮膚の病と境界の神——日本「賤民」史研究への一階梯——	鯨井千佐登	145-182
流行病と予言獣	常光 徹	183-200
俗信と「文明開化」——明治初年代から一〇年代にかけて——	荻野夏木	201-234
動植物をめぐる俗信とことわざと俳諧	篠原 徹	235-246

湯立神楽の意味と機能——遠山霜月祭の考察——	鈴木正崇	247-269
[研究ノート]		
「真覚寺日記」にみる疫病と呪術	梅野光興	271-289
漁師の呪術観——宮城県気仙沼市小々汐、尾形栄七翁の伝承——	川島秀一	291-308
「幸運の手紙」についての一考察	丸山泰明	309-317

第175集 (2013年1月発行)

鎌倉中期の京・鎌倉における漢籍受容者群——『管見抄』と『鳩嶺集』のあいだ——	福島金治	1-16
八世紀の寺院による土地領有と国家——讃岐国山田郡弘福寺領の実態と国家の土地把握——	三河雅弘	17-40
腰飾り・抜歯と氏族・双分組織	春成秀爾	77-128
古墳時代の首長——前・中期古墳の複数埋葬をめぐって——	広瀬和雄	129-162
[研究ノート]		
霊元天皇と三条西実教	野村 玄	41-54
縄文土器製作に関する予備的実験——縄文時代草創期土器の混和材による縮小率の検討——	小林謙一・坂本 稔・村田六郎太 加曾利貝塚土器づくり同好会	163-195
[資料紹介]		
曼殊院門跡所蔵『論語総略』影印・翻印	高田宗平	55-76

第176集 共同研究「歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究」

(2012年12月発行)

共同研究の概要と経過——基盤研究「歴史資料研究における年代測定の活用法に関する総合的研究」——	坂本 稔	1-3
日本先史・古代竪穴住居の構築材の年代測定による住居構築年の検討	小林謙一	5-55
歴史的建造物由来ヒノキ材の年代判定	横山 操・伊東隆夫・川井秀一・尾崎大真・坂本 稔 今村峯雄・光谷拓実・窪寺 茂・濱島正士	57-79
放射性炭素年代測定法を用いた中近世建築遺構の年代判定——国宝大善寺本堂、旧土肥家本家および隠居居住宅、重要文化財三木家住宅——	中尾七重・渡辺洋子 坂本 稔・今村峯雄	81-117
本願寺御影堂門の建築部材における ¹⁴ C年代測定	横山 操・杉山淳司 川井秀一・坂本 稔	119-128
炭素14年代法による茨城県牛久市観音寺の年代	坂本 稔・今村峯雄・一色史彦 若狭 幸・松崎浩之	129-140
伝円珍筆三井寺切の放射性炭素年代と紙背『文選注』断簡の書写年代	小田寛貴・安 裕明 池田和臣・坂本 稔	141-149
[調査研究活動報告]		
中世・近世料紙の年代研究についての調査報告	井原今朝男	151-160
[研究ノート]		
福岡市鴻臚館跡出土木橋の年代について	今村峯雄・大庭康時	161-168
表計算ソフトによる炭素14年代較正プログラムRHCバージョン4	坂本 稔	169-178

第176集 共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」

(2012年12月発行)

共同研究の経緯と成果	安達文夫	179-185
博物館におけるデジタル資料情報の記述法——転写資料記述のための概念モデル——	安達文夫	187-218

転写資料記述のための概念モデルの設計について	鈴木卓治	219-238
転写資料記述のための概念モデルの特徴と課題	宇陀則彦・山田太造・村田良二・山本泰則	239-266
転写資料記述法の歴史民俗研究への適用から見た評価	仁藤敦史・高橋一樹・大久保純一 村木二郎・内田順子・安達文夫	267-295

第177集 共同研究「歴史資料に対する自然科学的調査法の開発と適用に関する研究」

(2012年11月発行)

共同研究の経過と概要	齋藤 努	1-5
波長選択的像形成による歴史資料の画像解析に関する基礎検討	宮田公佳	7-28
中央アジア・バーミヤーン仏教壁画の分析(1) ——シンクロトロン放射光を用いたSR- μ FTIR, SR- μ XRF/SR- μ XRD分析——	谷口陽子	29-79
中央アジア・バーミヤーン仏教壁画の分析(2) ——GC/MS, ELISA法による有機物質の同定——	谷口陽子	81-105
高濃度のヒ素を含む古代の鉄関連資料の事例	高塚秀治・永嶋正春・坂本 稔・齋藤 努	107-125
刀匠が継承する伝統技術の自然科学的調査	齋藤 努・坂本 稔・高塚秀治	127-178
大鍛冶の炉内反応に関する検証と実験的再現	齋藤 努・坂本 稔・高塚秀治	179-229

第178集 開館30周年記念論文集I (2013年3月発行)

開館30周年記念論文集刊行の辞	平川 南	
土器出現の年代と古環境——研究史の整理から——	工藤雄一郎	1-55
縄文時代における部分骨合葬	山田康弘	57-83
弥生文化の輪郭——灌漑式水田稲作は弥生文化の指標なのか——	藤尾慎一郎	85-120
古墳出土龍文透彫製品の分類と編年	高田貫太	121-141
山城・蛇塚古墳をめぐる二、三の問題	広瀬和雄	143-176
日本古代における王宮構造の変遷——とくに前期難波宮と飛鳥宮を中心として——	林部 均	177-202
「戦後民俗学の認識論批判」と比較研究法の可能性——盆行事の地域差とその意味の解読への試み——	関沢まゆみ	203-236
超高精細画像自在閲覧方式の利用記録による評価	安達文夫・鈴木卓治・徳永幸生	237-259
七世紀後半における公民制の形成過程	仁藤敦史	261-280
古代の郡家と里・郷	平川 南	281-304
室町・戦国期の天皇裁判権とふたつの官僚制	井原今朝男	305-329
『洛中洛外図屏風』 歴博甲本にみえる内裏とその行事	近藤好和	331-352
「高松宮家伝来禁裏本」の形成過程	小倉慈司	353-404

第178集 別冊 (2013年3月発行)

玉井哲雄先生を送る	坂本 稔	1-2
玉井哲雄年譜・業績目録		3-12
永嶋正春先生を送る	齋藤 努	13-14
永嶋正春年譜・業績目録		15-26
西本豊弘先生を送る	山田康弘	27-28
西本豊弘年譜・業績目録		29-39
広瀬和雄先生を送る	上野祥史	41-42
広瀬和雄年譜・業績目録		43-57

第179集 共同研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」(2013年11月発行)

共同研究の経緯と概要	広瀬和雄	1-8
------------	------	-----

第1部 7世紀の地域社会			
終末期古墳の歴史的意義——7世紀の中央政権の地方統治——	広瀬和雄	11-72	
7世紀の地域社会と領域支配——播磨国揖保郡の古墳と寺院、郡里の成立——	岸本道昭	73-113	
7世紀における地域社会の変容——古墳研究と集落研究の接続をめざして——	菱田哲郎	115-135	
7世紀における地域拠点の形成過程——東海地方を中心として——	鈴木一有	137-166	
東日本における古墳時代後期の朝鮮半島系遺物と首長層の動向	太田博之	167-196	
第2部 宮都と官衙			
近江大津宮をめぐる諸問題	吉水眞彦	199-228	
秋田城の成立・展開とその特質	熊谷公男	229-268	
宮城県地域における古代地方行政単位の形成過程について	古川一明	269-294	
古人大兄皇子論	荒木敏夫	295-311	
第3部 寺院と儀礼			
小治田寺・大后寺の基礎的考察	吉川真司	315-338	
「国占め」神話の歴史的 premise——古代の食膳と勸農儀礼——	坂江 渉	339-361	
第4部 異文化と境域			
古墳時代から飛鳥・奈良時代にかけての東北地方日本海側の様相	藤沢 敦	365-390	
7～12世紀の琉球列島をめぐる3つの問題	安里 進	391-423	
『日本書紀』の「任那」観——官家・日本府・調——	仁藤敦史	425-454	
定額制の成立——唐代後半期における財務運営の転換——	渡辺信一郎	455-480	

第180集 共同研究「洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究」(2014年2月発行)

研究の概要	小島道裕	1-11	
I 復元と描かれたものの検討			
洛中洛外図屏風歴博甲本右隻第二扇における欠損部分の再現	岩永てるみ	15-47	
洛中洛外図屏風歴博甲本の復元工程	阪野智啓	49-64	
[研究ノート]			
洛中洛外図屏風(歴博甲本)に貼られた付箋の書	海野圭介・中村健太郎	65-77	
[調査研究活動報告]			
洛中洛外図屏風歴博甲本人物データベース各項目の立項方法と入力語	大藪 海	79-103	
II 洛中洛外図屏風と社会的背景			
洛中洛外図屏風歴博甲本制作事情をめぐって	小島道裕	107-128	
中世都市研究としての天文法華の乱——描かれた洛中法華教団寺院をめぐって——	古川元也	129-140	
[研究ノート]			
洛中洛外図の中の京都——都市図としての視点から——	鋤柄俊夫	141-158	
洛中洛外図屏風歴博F本の位置づけについて	大塚活美	159-170	
III 洛中洛外図屏風の活用			
超高精細デジタル資料「洛中洛外図屏風」の閲覧特性——利用者の閲覧行動からの分析——	安達文夫	173-208	
画像・文字情報融合手段としての人物データベース構築	宮田公佳	209-229	

第181集 共同研究「自然と技の生活誌」(2014年3月発行)

共同研究「自然と技の生活誌」の目的と経過	安室 知	1-7	
I 生活誌の試み			
定期市における売り手の技術に関する試論——高知・街路市のサカキ・シキビ店を事例として——	山本志乃	11-38	
「筑波研究学園都市の民俗」試論——人工的自然の民俗誌——	山下裕作	39-69	

[研究ノート] 箕と俗信——あおる・たてる・かぶせる——	常光 徹	71-80
遺された／生きる者にとっての、墓——牧畜民ヒンバの事例から——	吉村 郊子	81-109
II 生活環境史の試み		
絵馬を読む——和船時代の土佐カツオー本釣り漁をめぐって——	松田 睦彦	113-131
[研究ノート] 追尾士の捕鯨記録——北海道網走市、昭和46～47年の小型沿岸捕鯨——	川島 秀一	133-146
[研究ノート] 環境変化に伴う生業のあり方 [ウシガエルの流入を中心として]——『増田実日記』を糸口に——	秋山 笑子	147-164
再考、魚名の研究——アワビの民俗分類と商業論理——	安室 知	165-204

第182集 共同研究「中近世における武士と武家の資料論的研究」 (2014年1月発行)

共同研究の経過と概要	高橋一樹	1-6
「軍神」(いくさがみ)考	佐伯真一	7-28
地頭下文の基礎的考察	高橋一樹	29-43
戦国期武家の日常使用の貿易陶磁の実像——十五世紀中葉～十六世紀中葉を中心に——	水澤幸一	45-73
城の受け取りと武家の財——近世の城、その構成要素——	佐藤宏之	75-87
出世双六にみる幕臣の出世	高久智広	89-114
米沢藩中条氏における系譜認識と文書管理	前嶋 敏	115-145
桐生彦部家の足利将軍家旧臣活動	菱沼一憲	147-165
戦功の記録——中世から近世へ——	久留島典子	167-181
合戦図自在閲覧システム——統合モードの適用とその評価——	安達文夫・鈴木卓治・徳永幸生	207-232
[研究ノート]		
止戈枢要について——続録を中心として——	近藤好和	183-200
「武士関係資料」再論	小島道裕	201-206

第183集 開館30周年記念論文集II (2014年3月発行)

江戸期小判などの色揚げに関する自然科学的研究	齋藤 努	1-51
東国の初期前方後円墳をめぐる諸問題——古墳時代像の再構築をめざして——	広瀬和雄	53-112
西日本の弥生稲作開始年代	藤尾慎一郎	113-143
歴博における映像資料の収集・製作・活用について——現状と課題、そして展望——	内田順子	145-168
東日本大震災と文化資源——宮城県気仙沼市小々汐地区から——	小池淳一	169-186
石屋の祀る山の神・再考——祭祀の実態と篤い信仰への疑問——	松田睦彦	187-207
結婚式場の成立と永島婚礼会	山田慎也	209-230
中村惕斎と近世日本の楽律学をめぐる試論	遠藤 徹	245-261
江戸城門番役の機能と情報管理	岩淵令治	263-304
[研究ノート]		
土葬から火葬へ——新たな納骨施設設営の上での3つのタイプ：熊本県下の事例より——	関沢まゆみ	231-244
[資料紹介]		
『大和三位入道宗恕家乗』——軍配者の故実と伝承——	小島道裕	305-318
幕臣博物学者鶴田清次とその資料	樋口雄彦	319-362

第184集 共同研究「博物館情報資源の機能的活用手法の検討とその応用に関する研究」

(2014年3月発行)

共同研究の概要	宮田公佳	1-12
[調査研究活動報告]		

博物館の情報資源活用のための情報デザイン	原田 泰	13-28
デジタル技術を活用した色彩研究成果の博物館展示への応用	Markku HAUTA-KASARI 宮田公佳・Jussi PARKKINEN	29-54
[研究ノート]		
ジオラマ展示バーチャル散策システムに関する検討	中口俊哉	55-70
質感工学の博物館応用	津村徳道	71-98
博物館情報資源の機能的活用のための画像技術と著作権法の連携議論	宮田公佳・松田政行	99-155
第185集 共同研究「農耕社会の成立と展開—弥生時代像の再構築—」 (2014年2月発行)		
研究の経緯と成果・課題	藤尾慎一郎	1-14
続縄文文化の資源・土地利用——隣接諸文化との比較にもとづく展望——	高瀬克範	15-61
韓半島の初期青銅器文化と初期弥生文化——突帯文土器と集落を中心に——	李 亨源	63-92
韓半島における初期鉄器の年代と特質	李 昌熙	93-110
山陰地方における弥生時代前期の墓地構造——墓制からみた縄文／弥生の様相——	山田康弘	111-138
人口と集落動態からみた弥生・古墳移行期の社会変化——吉備中南部地域を中心に——	松木武彦	139-154
弥生鉄史観の見直し	藤尾慎一郎	155-182
研究史からみた弥生時代の鉄器文化——鉄が果たした役割の実像——	野島 永	183-212
ユーラシア東部における青銅器文化——弥生青銅器の起源をめぐって——	小林青樹	213-238
弥生青銅器祭祀の展開と特質	吉田 広	239-281
弥生移行期における土器使用状況からみた生業	小林謙一	283-347
日本列島における中国鏡の分配システムの変革と画期	上野祥史	349-367
倭における国家形成と古墳時代開始のプロセス	岸本直文	369-403
「水田中心史観批判」の功罪	安藤広道	405-448
農耕文化複合と弥生文化	設楽博己	449-469
[調査研究活動報告]		
福岡県小郡市大保横枕遺跡の年代学的調査——弥生前期の二重環壕を備えた集落の年代——	藤尾慎一郎・山崎頼人・坂本 稔	471-487
鳥取平野における水田稲作開始期の年代学的調査——弥生前期中頃の突帯文土器——	藤尾慎一郎・濱田竜彦・坂本 稔	489-509
西関東地方における穀物栽培の開始	設楽博己・高瀬克範	511-530
第186集 (2014年3月発行)		
伝承を持続させるものとは何か——比婆荒神神楽の場合——	鈴木正崇	1-29
国立歴史民俗博物館蔵五山版目録解題	住吉朋彦	31-82
[研究ノート]		
宮内庁書陵部所蔵京都御所旧蔵本の由来——吹上御文庫本の検討		
附 宮内庁書陵部所蔵『吹上御文庫書籍目録写』翻刻——	小倉慈司	83-207
共同研究「日本の中山間地域における人と自然の文化誌」の中間報告		
——二五穴からみた水利用——	西谷 大・島立理子・大久保悟	295-309
共同研究「日本の中山間地域における人と自然の文化誌」の中間報告		
——蔵玉・折木沢用水の立地と水田耕作の関係——	上田大斗・大久保悟・島立理子・西谷 大	311-319
[資料紹介]		
中国出土簡牘の整理・研究における新進展	王 素	259-275
史料研究『兼仲卿記』紙背文書 正応元年八月巻	勘仲記裏文書の会	209-231
国立歴史民俗博物館所蔵『日野家代々年号勘文自応保度至応安度』影印・翻印篇	高田宗平・名和敏光	233-257

[調査研究活動報告]

国立歴史民俗博物館総合展示第1室（原始・古代）の新構築事業——2012年度活動報告——	渋谷綾子	277-293
共同研究「日本の中山間地域における人と自然の文化誌」中間報告——記録からみる蔵玉・折木沢用水の開削——	島立理子・西谷 大・大久保悟	321-335
井原今朝男先生を送る	小島道裕	337-338
井原今朝男年譜・研究業績目録		339-351
常光徹先生を送る	小池淳一	353-354
常光徹年譜・主要業績目録		355-372
平川南館長を送る	久留島浩・青山宏夫・藤尾慎一郎・大久保純一	373-376
平川南年譜・主要業績目録		377-414

第187集 共同研究「縄文時代の人と植物の関係史」（2014年7月発行）

共同研究の経過と概要——開発型共同研究「縄文時代の人と植物の関係史」——	工藤雄一郎	1-12
第1部 縄文時代の人と植物の関係史：研究動向と最新の成果		
[論文] 遺跡出土植物遺体からみた縄文時代の森林資源利用	能城修一・佐々木由香	15-48
[論文] 縄文時代のウルシとその起源	鈴木三男・能城修一・田中孝尚 小林和貴・王 勇・劉 健全・鄭 雲飛	49-71
[論文] 縄文時代草創期土器の煮炊きの内容物と植物利用——王子山遺跡および三角山Ⅰ遺跡の事例から——	工藤雄一郎	73-93
[論文] 雑草からみた縄文時代晩期から弥生時代移行期におけるイネと雑穀の栽培形態	那須浩郎	95-110
[論文] 韓国橢文土器文化の土器圧痕と初期農耕	小畑弘己・真邊 彩	111-160
第2部 下宅部遺跡の植物利用と古環境に関する新たな研究成果		
[論文] 下宅部遺跡の花粉と年代からみた縄文時代中期から晩期の植生史と植物利用	吉川昌伸・工藤雄一郎	163-188
[論文] 現生のウルシの成長解析からみた下宅部遺跡におけるウルシとクリの資源管理	能城修一・佐々木由香	189-203
[調査研究活動報告] 下宅部遺跡から出土したウルシ属とヌルテ属果実	吉川純子・小林和貴・工藤雄一郎	205-216
[論文] 下宅部遺跡から見た縄文時代の漆工技術	千葉敏朗	217-246
[調査研究活動報告] 下宅部遺跡出土縄文時代赤色顔料関係資料の蛍光X線分析結果	永嶋正春	247-278
[論文] 圧痕レプリカ法からみた下宅部遺跡の種実利用	小畑弘己・真邊 彩・百原 新 那須浩郎・佐々木由香	279-296
[論文] 下宅部遺跡における縄文土器の敷物圧痕分析——土器製作に用いられた編組製品について——	真邊 彩	297-322
[論文] 下宅部遺跡の編組製品および素材束の素材からみた縄文時代の植物利用	佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一	323-345
[論文] 植物珪酸体分析による下宅部遺跡出土編組製品と素材束の素材同定	米田恭子・佐々木由香	347-356
[研究ノート] 縄文土器付着植物遺体と石器の残存デンプン粒分析からみた東京都下宅部遺跡の植物利用	渋谷綾子	357-386
[調査研究活動報告] 縄文時代の植物利用の復元画製作	工藤雄一郎・千葉敏朗・佐々木由香 能城修一・小畑弘己・鈴木三男	387-402
第3部 縄文時代の植物利用に関する基礎的研究		

[論文] アサ利用の民俗学的研究——縄文時代のアサ利用を考えるために——	篠崎茂雄	405-424
[調査研究活動報告] 縄文時代のアサ出土例集成	工藤雄一郎・一木絵理	425-440
[論文] アサ花粉の同定とその散布	吉川昌伸・工藤雄一郎	441-456
[論文] 出土編組製品素材の同定方法	小林和貴・鈴木三男	457-467
[調査研究活動報告] ウルシ花粉の散布調査	吉川昌伸・工藤雄一郎・能城修一 吉川純子・佐々木由香・千葉敏朗	469-477
[調査研究活動報告] 石器によるウルシ樹液採取実験	千葉敏朗・工藤雄一郎 佐々木由香・能城修一	479-489
[調査研究活動報告] 遺跡出土大型植物遺体データベースの意義	百原 新・工藤雄一郎 小林弘和・石田糸絵・沖津 進	491-494

第188集 「中世における儀礼テキストの総合的研究—館蔵田中旧蔵文書『転法輪鈔』を中心として—」

(2015年発行予定)

共同研究の経過と成果	松尾恒一
第1部 論考編	
中世仏教における儀礼テキストの総合的研究	阿部泰郎
歴博本『転法輪鈔』密教帖の世界	三好俊徳
歴博本『転法輪鈔』「関白家修善帖」と松殿基房	阿部美香
高松院と澄憲—表白の検討を中心に—	筒井早苗
[資料紹介] 真福寺本『中堂呪師作法』に見る延暦寺修正会儀礼と呪師作法	松尾恒一
敦煌本『仏説諸経雜縁喩因由記』の考察	荒見泰史
第2部 資料 国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』翻刻と解題	
国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』解題	牧野淳司 他
表白一覧	
各帖解題	牧野淳司 他
凡例	
翻刻	
第一帖	牧野淳司
第二帖	三好俊徳・筒井早苗
第三帖	阿部美香
第四帖	阿部美香・猪瀬千尋・三好俊徳
異体字・判読不能文字一覧	
索引	

第189集 共同研究「デジタル化された歴史研究情報の高度利用に関する研究」(2015年1月発行)

共同研究の経緯と成果	鈴木卓治	1-14
博物館資料情報の検索のための発見的検索手法	山田 篤・安達文夫・小町祐史	15-40
時間と場所の情報を有する大量の写真資料の提示法	安達文夫・青山宏夫・田中紀之・徳永幸生	41-77
タッチ操作向け画像資料の電子付箋基盤のデザインとその実装	津田光弘	79-115
企画展示「楽器は語る」におけるマルチメディアコンテンツについて	鈴木卓治	117-141
分光情報に基づいた文化財展示システムの開発	田中法博・望月宏祐・宮下朋也 村田良二・鈴木卓治	143-177

第190集 (2015年1月発行)

ふたたび鉄炮伝来論——村井章介氏の批判に応える——	宇田川武久	1-28
魚住泊の位置と年代——明石市江井ヶ島港出土木材の再検討——	春成秀爾・工藤雄一郎	

	稲原昭嘉	83-102
広橋兼秀の有職研究——中世貴族社会における「揚名介」認識の一例として——	渡辺 滋	29-55
[資料紹介]		
国立歴史民俗博物館蔵後奈良天皇宸翰『詞花和歌集』——解題と翻刻——	酒井茂幸	57-81
第171集～第190集総目次		103-112